

令和8年第3回議会定例会（諸般の報告）

開会に当たり、諸般の報告を申し上げます。

はじめに、「令和8年8月千葉豪雨」について申し上げます。

8月13日木曜日、千葉県を襲った記録的な大雨により、一時は千葉県内22の市町に「レベル5大雨特別警報」が発表されました。

白井市内においても時間雨量110ミリを記録し、床上・床下 浸水被害や道路冠水、マンホール蓋の浮上、停電も発生しました。

被害に遭われた皆様に、心からお見舞い申し上げます。市としましても関係機関と連携しながらできる限り支援を行うとともに、今回の豪雨を受けて課題等を検証し、今後の自然災害対策に活かし、自助・共助・公助の連携・強化を図り、白井市第6次総合計画に掲げた、6つの目指すまちのひとつである、「災害に強いまち」を築いてまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

次に、「しろいの梨」について申し上げます。

市特産の「しろいの梨」が収穫期を迎えております。今年度は、成長期に十分な雨が降ったことから、みずみずしく、大きめの梨が多く収穫されていると伺っております。

今は、「豊水」が終盤を迎えており、「あきづき」に移行してきておりますが、まだまだ多くの方が「しろいの梨」を求めて、直売所にお越しいただいております。

今年も、「千葉なし 味自慢コンテスト」が習志野市にあるイオンモール津田沼を会場に開催され、8月29日に審査、30日に受賞商品の直売会が実施されました。

昨年度は、「幸水」で市内の生産者が農林水産大臣賞をはじめ、数々の賞を受賞しましたが、今年度は、「豊水」が、県内17市町、20団体から125点出品され、専門家の審査の結果、「しろいの梨」の生産者である鈴木 教善さんが最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。

そして、2位に贈られる千葉県知事賞も白井中央梨選果場組合Dが受賞され、2年連続して、1番、2番の評価を白井市の生産者がうけたところです。そのほか、全国共済農業協同組合連合会千葉県本部長賞、千葉県果樹園芸組合連合会長賞、奨励賞を「しろいの梨」の生産者が受賞しました。昨年に引き続き1位、2位を受賞したことにより、あらためて「しろいの

梨」はトップレベルであることが証明されたところでございます。

次に、「知事による現地視察及び意見交換について」申し上げます。

8月3日（月曜日）に北総地域の現地視察として、白井市及び印西市に熊谷知事が来訪されました。

知事には、二重川沿いに位置する「株式会社千葉白井農園」によるトマトのハウス栽培施設建設予定地を視察いただき、白井市のこれからの農業のあり方の一例をご紹介しました。

また、視察後は印西市役所にて藤代印西市長とともに、「千葉ニュータウンの活性化について」や「県道千葉ニュータウン北環状線の早期整備について」などについて意見交換を行いました。

市では、今後も千葉県や印西市と連携を深めながら、まちづくりを推進してまいります。

次に、「早期不妊検査費助成事業について」申し上げます。

晩婚化、晩産化が進むなか、不妊を心配したことがある夫婦や、実際に不妊の検査や治療を受けたことがある夫婦の割合が増えています。

こうしたことから、早期に不妊検査を受けやすい環境を整備し、必要に応じて、適切な相談又は治療につなげる支援を行うため、現在準備を進めております。

市としましては、こどもを希望する方が、安心して妊娠・出産の準備ができるよう支援に取り組んでまいります。

次に、「T R Eホールディングス株式会社との環境課題等に関する協定の締結について」申し上げます。

市では、環境問題や地域課題の解決を図り、地域循環共生圏の実現や地域活性化の推進並びに災害に対する応急復旧対策の強化を目的として、T R Eホールディングス株式会社と「環境課題等に関する協定」を締結しました。

協定内容については、カーボンニュートラル及びサーキュラーエコノミーの推進や災害時の協力に関することなどとなっております。

この協定の締結により、今まで廃棄物として処理されていたものを資源として利用し循環させるサーキュラーエコノミー や、廃棄物焼却量の減量によるカーボンニュートラルの推進、災害時に発生する災害廃棄物の処理や仮置場の管理運営等の協力を得られることとなります。

市では、今後も市民の皆様や民間企業等の多様な主体と連携し、廃棄物

の減量化や ゼロカーボンシティの実現に向けたCO₂ 排出量の削減、並びに災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。

次に、「プロスポーツチームとの包括連携協定について」申し上げます。

市は、白井市をホームタウンとするプロスポーツチームを有する3者と包括連携協定を締結しました。

まず1つ目は、スリーオンスリーのバスケットボールチーム北総ライノスを有する株式会社バックシート、2つ目は、ラグビーチームJR東日本グリーンウォリアーズ東葛を有する東日本旅客鉄道 株式会社、3つ目は、サッカーチーム柏レイソルを有する株式会社日立柏レイソルです。

3者とも包括連携協定締結前から、市と連携し活動してまいりました。具体的に、北総ライノスは市のバスケットボールチームへの指導・育成教室等を実施、JR東日本グリーンウォリアーズは、保育園・小学校を対象としたラグビー教室などを実施、柏レイソルはホームタウンデーにて市のPRを実施するなど、そのほか様々な活動を市と実施し、連携を強化してまいりました。

各チームと協定を締結することで、連携をより強化し、それぞれのスポーツの強み、各チームの強みを活かした連携に取り組み、市民サービスの向上を図ってまいります。

最後に「令和9年度予算編成方針」について申し上げます。

令和9年度予算については、一般会計の予算総額を約240億円と見込み、2つの方針を定め編成することとしております。

1つ目の方針は「第6次総合計画前期基本計画の着実な推進」です。令和9年度は、前期基本計画の2年目にあたることから初年度の課題や進捗などを踏まえ、計画に定めた「6つの目指すまち」の各施策を着実に推進することとしております。このうち特に「暮らしの安全・安心の確保」と「若い世代の定住促進」に優先的に取り組むこととしております。

「暮らしの安全・安心の確保」に向けては、激甚化する自然災害への備えを強化し、市民の安全・安心を確保するため、ハード・ソフト 両面から防災・減災対策を推進します。

また、子育てや福祉、交通、防犯などの各分野において、安全・安心に暮らせる地域づくりに資する取組を推進することとします。

次に、「若い世代の定住促進」に向けては、人口減少が進む中で、人口構造のバランスを維持するためには、若い世代の希望に応じて就職・結婚・

出産・子育てなど、ライフステージを通じた支援策を講じ、次代を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、保育・教育環境の向上を推進します。

また、こどもたちの声を反映し、遊び場や居場所の拡充を講じることとします。

次に、2つ目の方針は「持続可能な行財政運営の実現」です。

市の将来を見据えた安定的な財源の確保が必要であることから、税の徴収率の向上やふるさと納税制度の活用を図るとともに、企業誘致の推進により、更なる歳入の確保を図ること。国県補助金の確実な活用や多様な方法による財源確保を図ること。

「白井市D X推進指針」に基づき、市民サービスの向上や市役所業務の効率化、地域活動の活性化にD Xの取組を推進します。

なお、事業の実施に当たりましては、S D G s やゼロカーボンの視点のほか、産官学の連携を意識しながら取り組み、包括連携協定を締結している企業等との役割分担のもと、財源の確保とともに市民サービスの充実に努めてまいります。

以上、申し上げました予算編成方針に基づきまして、今後、予算編成作業を進めてまいります。

以上で諸般の報告を終わります。

